

ヘブル・ミドゥラーシュ
初めと終わりの文字について



**The Celebrate Mattzot
Midrash in Hebrew**

水曜アシュレークラス
タマリ テルコ

目次 タイトル

1. 「ヘブル語について」 אָアーレフと תターヴ
2. 「完璧な光について」ウリム וּרִימִים ウーリームとトンミム וּמִימֵי תוֹצֵאֵם トウツミーム
3. 「地上再臨の様子について」 来る הָאָאָアーター
4. 「時のしるしについて」 しるし אֹת オート
5. 「信じるとは」 同意する אֹת ウート
6. 「信仰の在り方について」 炉 אֶתוֹן アットウーン
7. 「アロンの胸の上にあるようにするとは」
8. 「メリズモ」修辞法について אָ と ת
9. まとめ

1. ヘブル語の初めの文字 אָアールーフと終わりの文字 וָターヴ

まず初めに、ヘブル語を学ぶとき、アルファベットを覚えます。

その初めから終わりの文字を覚えられないことには、何も始まりません。そして、22文字のヘブル語には神さまの意図が隠されているようです。それを知るためには、まず、ヘブル語のアルファベットを学ぶことが必要不可欠です。聖書には、更なる真髄のドアがあって、そこには鍵が掛かっています。その鍵を開くにはヘブル語の文字が必要だと思いました。とっても重要です。今日は、ヘブル語の初めの

文字 אָアールーフと終わりの文字 וָターヴの繋がりが、どれほど イエシュアを表しているかをミドゥラーシュして行きたいと思います。

一般的に文字を書くとき、読むとき、私たちの頭の中は、左の図のように文字は並列のイメージではないでしょうか。私はヘブル語を学んで、更に聖書と共に考えているうちに並列ではなく円形のイメージではないかと考え始めました。文字を読むのも左から右ではなく、右から左。私たちの世界から見ると鏡から見た世界です。このヘブル語は天にあるものの写しです。**א**から**ת**までの流れのイメージも違うはずです。それは、初めの【創世記】が終わりの書である【黙示録】と繋がっていると云うことも意味しているのだと思います。

←

אבגד הוזחט
יכלמנסעפצ
קרשת



聖書で初めてこの \aleph アーレフと τ ターヴが出てきた初出箇所を見て行きたいと思います。

それは創世記1章1節の④番目の文字です。

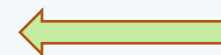
【創世記 1:1】

はじめに神が天と地を創造された。

בְּרֵאשִׁית בְּרָא אֱלֹהִים אֶת הַשָּׁמַיִם וְאֶת הָאָרֶץ
⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ①

聖書の一番初めの章に $\aleph\tau$ エートが「目的格」として登場します。そして神さまはこの④番目の $\aleph\tau$ エート以降から、この世の全てのものの創造を開始しています。また、アルファベットの④番目の

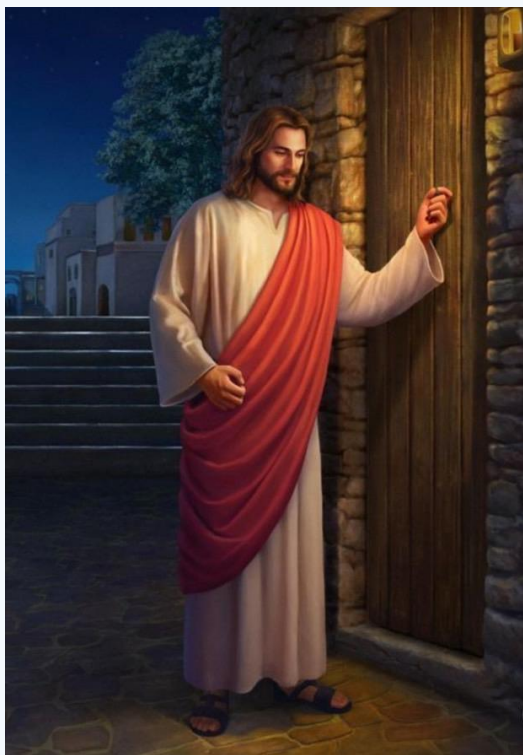
אבגד הו זח ט י כ ל מ נ ס ע פ צ ק ר ש ת
④ ③ ② ①



文字も見てください。④番目の文字は \daleth ダーレトです。それは「門」 \daleth デレトを表わす言葉です。

つまり、ここから神さまの創造の「門」が開き、御国の計画がスタートしたように思えます。

みなさん、「門」と言ったら、どなたを思い出しますか？
また、思い出す聖句を言ってみてください。どこの箇所でしょう？
(ミュートを外して！)



答えは、

【ヨハネ 10:9】

わたしは「門」 **דָּלַת** /デレット/ **שַׁעַר** シャアルです。だれでもわたしを通過して入るなら、救われす。

⑨この聖句で使われているヘブル語は **שַׁעַר** シャアルです。

דָּלַת = **דָּלַת** デレット = **שַׁעַר** シャアル = **イエシュア**

また、「初め」と「終わり」と言ったら？誰が示されましたか？

【黙示録 22:13】

わたしはアルファ α であり、オメガ ω である。

最初であり、最後である。初めであり、終わりである。

アルファ α / \aleph アーレフ「初め」であり、オメガ ω / τ ターヴ「終わり」= **イエシュア**

これらの2つの聖句が示すように「門」は「**イエシュア**」を表し、「**初めであり終わり**であるお方」、それも「**イエシュア**」を表しています。全てイエシュアを表す「ことば」です。

昨日の発表を受けて、「**全てのことが神から発し、神によって成り、神に至ります**」という聖句が、リレーのように、私にバトンタッチされた気がします。なぜなら、今日のテーマだからです。ここで満先生の歌声が浮かんできました。♪~(^ ^)♪

♪「全てのことは神から発し」ています。♪～

私たちは神さまから「ことば」を頂きました。それは私たちが神の似姿に近づくためのものです。つまり、イエシュアを表すために、𐤀アーレフから𐤅ターヴまでの22文字のアルファベットが与えられたと言うことなんです。これは**イエシュアを表すための完璧で、霊的なアルファベット**なのではないでしょうか！そして、それを私たちは各国の言語を通して使っています。でも、実はそれだけでは完璧ではありません。この「ことば」「文字」を完璧にするのにはどうすべきなのかを考えて行きたいと思います。

さあ、ここから本題です。ここで𐤀が「対として」出て来る聖書箇所には導かれました。

それは、【**出エプト記 28:30**】の𐤀「ウリム」と𐤅「トンミム」です。

2. ウリム **אורִים** ウーリームとトンミム **תמיִם** トウツミーム

【出エジプト記 28 : 30】

さばきの胸当てにはウリム **אורִים** ウーリームとトンミム **תמיִם** トウツミームを入れ、アロンが【主】の前に出るときに、それがアロンの胸の上にあるようにする。

תמיִם トウツミーム
完全

את

אורִים ウーリーム
光

前に **את** アーレフとターヴがイエシュアを表していることを聖書の中で見つけて来ました。ここで

対になって出て来るウリム**אורִים**ウーリームとトンミム**תמיִם**トウツミームとは、「**完璧な光**」を示しています。つまり、みなさん、この光は何を表しているのでしょうか？

【ヨハネ 1 : 9】

すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。

【ヨハネ 8 : 12】

わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。



ウリム **אור** ウーリムとトンミム **תמי** トウツミームの「完璧な光」とは、「まことの光」であり、「神の計画」の全貌です。また「御心」でもあり、つまり、「イエシュア」そのものです。私たちが使う「ことば」も、その「ことば」や文字の中に「完璧な光」である「イエシュア」がいなければ、どの「ことば」も肉的で空しく、活かされないのではないのでしょうか。

さて、「この光が世に来ようとしていた。」とありますが、光であるイエシュアはどのように来られるのでしょうか。

3. 来る אָתָּא

「まことの光が、世に来ようとしていた。」ここで「来る」אָתָּאの初出箇所を見てみましょう。これから地上再臨されるイエシュアの様子がうかがわれる気がします。

【申命記 33:2】

【主】はシナイから「来て」אָתָּא セイルから彼らを照らし、パランの山から光を放ち、幾万もの聖なる者のところから近づいて「来られる」אָתָּא。その右手に彼らの御使いたちを伴って。

【余談です】

イエシュアが子ろばに乗ってエルサレムにやって「来る」אָתָּアのシーンを使ったかったのですが、「ろば」は「ろば」でも「ろば」違いでした。「雌ろば」אָתָּאではなく、「子ろば」אֵיךְアイールですよ！」とご指摘あり。

雌ろば
אָתָּא

子ろば
אֵיךְ

ここで「来る」アターの背景は、聖なるもののところから、御使いたちを伴って、光を放ち、輝き照らして、アターやって「来る」んです。イエシュアの地上再臨ってこんななのかと思いました。イエシュアはこのようにアターやって「来る」のではないのでしょうか？！

そして、今、私たちは終末に向かっていきます。大患難時代がやって来て、私たちは携挙されることでしょう。この描写のように地上再臨が起こり、そうして神さまのご計画が成就される時がやがて来ます。御国のとき、千年王国のときです。私たちはこの時の「しるし」アトに敏感でありたいものです。

4. 「しるし」תִּשְׁבָּע「時のしるし」

さてここで、私たちのこれからの課題である「時のしるし」תִּשְׁבָּעと云う語彙と出会いました。みなさん、創世記1章で4日目には何が起こったでしょうか？覚えていらっしゃるでしょうか？？？

【創世記1:14】

神は仰せられた。「光る物が天の大空にあれ。昼と夜を分けよ。
定められた時々のため、日と年のための「しるし」 תִּשְׁבָּעとなれ。

これは、「しるし」תִּשְׁבָּעの初出箇所です。まず、ここで「光るもの」が天に置かれたことで、定められた時々の為に、神さまは「時のしるし」を作られました。それは何かというと、

【レビ記23:2】

あなたがたが聖なる会合として召集する【主】の例祭、すなわち、わたしの例祭は次のとおりである。

時の「しるし」アオトとは、光によって1日の始まりと終わりが示されることで、1日/1週間/1か月/1年が定められ、また季節ごとの枠組みも出来ました。更に、安息日やお祭りなどが定まりました。

過越の祭・初穂の祭・種なしパンの祭・5旬節・七週の祭
ラツパの祭・仮庵の祭・宮きよめの祭・プリムの祭などがそれです。

私たちは罪のために、本来大切にしなければならない神さまの定めている例祭を知っているのに祝っていません。クリスマスはまさにすり替えの祭で、多くの教会は祝っています。これでは悪魔の祭典です。多くのクリスチャンは、神さまのご計画を示す重要な「しるし」アオトが見えていません。つまりはイエシュアが見えてないのです。或は見ようとしていないようにも思えます。残念なことだと思えます。

私たちがこのように例祭を行うことで、時の回復、つまりは、カレンダーの回復をすることが、イスラエルの回復にも繋がるのだと思います。その「しるし」
תּוֹרַתは「永遠のいのち」、「御国」に繋がっているからです。これからも神さまの定めた例祭、「時のしるし」のお大切にしていきたいと思いました。

5. 同意する אֵוּט

さて、さらに調べていきますと、「同意する」 אֵוּט という語彙が出てきました。旧約において神さまを信じ、割礼に「同意して」いる者たち、新約において言うならば、洗礼を受けてイエシュアの死と復活を信じ神さまに「同意する」なら、永遠のいのちを得て、御国への門をくぐることでしょう。ここで「同意して」 אֵוּט 割礼を受けた背景を見てみたいと思います。

「同意する」 אֵוּט の聖書初出箇所は、

【創世記34:15】

ただし、次の条件でなら同意 אֵוּט しましょう。もし、あなたがたの男たちがみな、割礼を受けて、私たちと同じようになるなら、

とあります。

この箇所【創世記 34:1～31】は、ヤコブの娘ディナがシケムに強姦された出来事が発端となっています。和解策が割礼でした。割礼後にヤコブの息子らシメオンとレビは、不意打ちに合わせてシケムの町の全ての男子を殺した話が「**同意した**」**同意アウト**この背景になっています。割礼に**同意アウト**したとしても、つまり洗礼を受けても、形だけの**同意アウト**ではいい結果を導いていないことが分かります。

6. 炉 אֶתְוֹןアットーン

千年王国、御国が来るということは、裁きのときを待つことです。形だけの同意 אֶתְוֹן ウートで神さまと契約を結んだとしても、シケムの町のようにいい結果にはなりません。また、私たちは常に試されています。夕があり、朝が来る。闇がありそして、光に導かれています。試練を通して、また死を通して復活の朝を迎えるのです。ここで最後に導かれた語彙は、「炉」 אֶתְוֹן アットゥーンです。この初出箇所を見て信仰を強めていきたいと思えます。

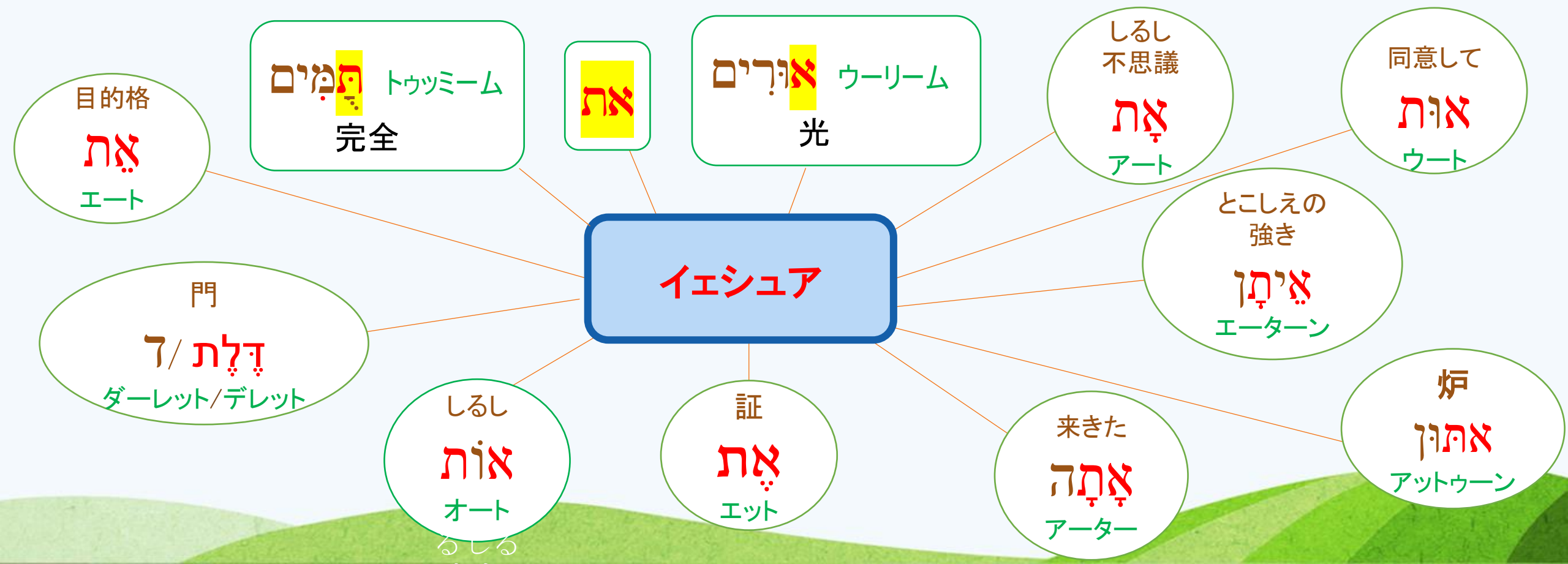
【ダニエル書 3:6】

ひれ伏して拝まない者はだれでも、即刻、火の燃える炉 אֶתְוֹן アットゥーンに投げ込まれます。

「**炉**」**アットゥーン**初出箇所は、偶像崇拝に屈せずに、「**炉**」に投げ込まれるという背景です。神への信仰に揺ぎが無く、それ故に燃える「**炉**」に投げ込まれるとは、アブラハムがイサクを捧げ、試されたように、神さまの試し、裁き、聖別を表しているのだと思いました。私たちは時々神さまからの試し「**炉**」**アットゥーン**が用意されているようです。今まで色々な苦しみ、悲しみ、痛みを通り抜けて来た人もいることでしょう。私たちはこれからもこの世の「**炉**」の中に投げ込まれるかも知れません。でも、その「**炉**」の中で燃え尽きることのない真の御霊(イエシュア)を保ち、神への絶対なる信頼、信仰を持っていこうではありませんか！

①「門」であるお方、②「最初」であり、「終わり」であるお方、③ 全ての「しるし」の中に「証し」されているお方、④ウリム とトンミム「完璧な光」を与えて下さるお方、それはイエシュアです！

みなさん、どの言葉もイエシュアに繋がっていることをこの図で確認してみてください。



7. 「アロンの胸の上にあるようにする。」

私たちはクリスチャンは、イエシュアを受け入れた祭司です。
ここでもう1度【出エジプト記 28:30】を読みたいと思います。

【出エジプト記 28:30】

さばきの胸当てにはウリム **אֲוִרִים** ウーリームとトンミム **תַּמִּים** トゥツミムを入れ、アロンが【主】の前に出るときに、それがアロンの胸の上にあるようにする。

「アロンの胸の上にあるようにする。」とは、私たちはみな祭司としての自覚をもって、これらの石「ウリムとトンミム」を「完璧な光」として、つまり「イエシュア」を胸の上にとどめると云うことだと思います。私たちは自分たちでは輝けません。なぜなら、土の器に過ぎないからです。でも、神さまは、その光を受けられるように神の似姿としての器を私たちに与えて下さりました。私たちは、イエシュアの「完璧な光」ウリム **אֲוִרִים** ウーリームとトンミム **תַּמִּים** トゥツミムをとどめてその光を増殖させていきましょう！これに気付き、これが出来るクリスチャンは幸いです。

8. **𐤆**と**𐤍**「メリズモ」修辞法

最後は、初めに戻りまして、**𐤆**と**𐤍**です。「初めと終わり」と云う相反するものを組み合わせることですべてを表す「メリズモ」修辞法と云うものについて少し触れたいと思います。「天と地」と書くことで、空間的に「天と地にあるもののすべて」を表します。他には「昼も夜も」と云う表現。これは時間的、状況的総体を表します。また、「ダンからベエルシェバまで」と云って地理的総体を表わしたり、「善と悪」「善からはじまり悪に至る」知識の総体を表すものもあります。ここも、全てイエシュアを証する**𐤍𐤆**エットの「ことば」です。

まとめ



イエシュアは、初め א であり終わり ת なるお方です。全ての「扉」を持っていて、時間、空間、次元をも超えて、「とこしえの」「強き」ת א א エーターンな存在です。ヘブル語の22文字は全てイエシュアを証 ת א א エットする霊的アルファベットです。神さまが与えて下さった神の言語を私たちはこのように学べることに感謝いたします。また、試練と言う「炉」の中でも、私たちにはイエシュアがいます！ ウリム א ו א ウー
リームとトンミム א ו א トゥツミームを胸にとどめ、困難な時こそ、イエシュアと向かい合い信仰を深めて行きましょう！そして、これからもベシェーム イエシュア！

その御名を呼び求めて行きましょう！

ご清聴ありがとうございました。